福井ジュニアラグビースクールステークホルダーコード

「ステークホルダーコード」とは、何かしらの影響または利害関係が生じるメンバーの「規則」「規定」です。 チームに関わるすべての人たちが、同じ理解、認識を共有することにより、余計なトラブルが起きないように、子どもたちが楽しく活動するためには不可欠なものです。
　ラグビー憲章で掲げる５つのコアバリュー**「品位・情熱・結束・規律・尊重」**は全世界でラグビーに関わる全ての人々に共有してほしい価値観です。すべてのステークホルダーは、５つ言葉が持つ意味をしっかり考え、一つ一つの言葉を心に刻み、そして、日々のラグビー活動の中で実践して、体現して、ラグビーに携わる仲間に良い影響を与えていきましょう。

■プレーヤーコード（各選手にむけて）

＜JRFU 共通＞
1.他人を喜ばすためではなく、自分自身の楽しみのためにプレーする。
2.競技規則に従ってプレーする。
3.レフリーの決定に対して決して文句を言わない。(伝えるなら手順を踏む。)
4.感情をコントロールする。
5.自分自身と自分のチームのためにプレーする。
6.チームメイトおよび相手の良いプレーを認める。
7.自分が扱われたいように他のすべてのプレーヤーを扱う。
8.コーチ、チームメイト、そして相手と協力する。

＜福井 JRS では＞
1.**中学生は２年～3 年生は練習開始にグラウンドへ集合し、練習準備を各自行う。**

2.試合を欠席・遅刻する場合は、原則、練習開始 1 時間前までに代表またはヘッドコーチへ連絡する。

3.大きな声で挨拶をする。特にグラウンド内や同じ施設を利用する人にも自ら挨拶を徹底する。

4.何事も最後まで諦めず全力で取り組む。

5.**グラウンドへ練習・試合終了の挨拶後、全員で片付けを行う。**

■観客コード（保護者、サポートスタッフ、関係者含む）

＜JRFU＞

1. プレーヤーはプレーヤー自身の喜びのためにプレーしているのであって親や観客の喜びのためではない。

2. 汚い言葉を使わない。

3. プレーヤー、コーチおよびレフリーを攻撃しない。

4.どちらのチームであっても良いプレーに対してはほめる。

5.相手に敬意を払う(相手なくして試合は成り立たないのであるから)。

6.暴力の行使を非難する。

7.レフリーの決定を尊重する。

＜福井 JRS＞

1.練習グラウンドへの送迎について、送迎ルール、駐車場ルールおよび交通ルールを遵守する。公式戦、練習試合を問わず、試合会場への自家用車の乗り入れはチームの指示に従う。

2.SNS へ投稿した保護者の記事により、チームや、子どもたちに迷惑がかからないよう十分気を付ける。同時に子どもたちへの注意喚起、指導を行う。
【具体的には】
・他チーム関係者への配慮（福井 JRS 以外の方々への配慮）
・同じチームメイトへの配慮（福井 JRS の方々への配慮）

3.試合や練習当日の活動が終了までは、チーム運営および子どもたちの自主性を尊重し、子どもたちとの距離感を保つよう配慮する。
【具体的には】
・活動の終了前に自分の子どもだけに近寄りケアをするような行為
・活動の終了前に仲間同士や兄弟で写真を撮影するような行為

4.選手の問題行動を確認した場合、対象選手を指導するとともに代表、ヘッドコーチへ情報共有を行う。

■管理者コード(GM、ヘッドコーチ)

＜JRFU＞
1.すべてのプレーヤーに参加のための機会を平等につくり出す。

2.ラグビーはプレーに参加する者のためにあり、観客のためのスポーツではない。

3.用具や施設がプレーヤーのニーズをよく考えたものであるようにする。

4.プレーヤーの成熟度に合わせて競技規則を変える。

5.他の行動規範(コード)を配布し、それらがよく知られるようにする。

6.他の人達もフェアプレーに対して同様の責任を持っていることを知らせる。

7.能力のあるコーチおよびレフリーのみを任命する。

8.コーチおよびレフリーを教育・訓練するための講習会を準備する。

＜福井 JRS＞
1.安全を最優先する。

2.プレーヤーセンタードの考えに基づき活動を実施する。

3.ヘッドコーチは、下記の基準を満たす方を任命する
・B 級コーチ以上の資格を保有している方
B 級コーチ以上の資格を保有していない場合、下記の項目を全て満たす方を任命する
・コーチングスキルがあり可能な限り、練習に参加できる方
・コーチ教育、訓練のための講習会に自主的に参加できる方
・スタートコーチ、セーフティーアシスタントの資格を保有している方

■コーチコード （ヘッドコーチ、アシスタントコーチ）

＜JRFU＞
1.発達期では基本スキルを向上させ、ポジションの専門化を避ける。

2.基本スキルを教えるのと同じようにスポーツマンシップを教えるための機会を作る。

3.ほめることでスキルの向上とスポーツマンシップに対する報酬を与える。

4.プレーヤーが将来的に必要なスキル学習をする時間を大会での勝利のための時間よりも優先する。

5.コーチとしての学びの努力を怠らない。

6.子ども達がテレビで見る大人のラグビーと自分達のラグビーの違いを理解することを助ける。大人だからできるプレーもあり、子どもが真似をすると危険なこともある。

7.ラグビーはレフリーが見ていなくても自分でルールを守るフェアープレー精神を子ども達に理解させる。

＜福井 JRS＞
1.安全を最優先する。

2.原則、全ての練習に参加する。

3.プレーヤーセンタードコーチングを実施する。

4.ヘッドコーチは、運営委員会にて任命され、B 級以上の資格または技量を保有する。

5.アシスタントコーチは、スタートコーチ以上の資格およびセーフティーアシスタントの資格を保有する。

6.毎年、安全・インテグリティ推進講習を受講する。

7.公式戦は最大限チーム力を向上させることができる選手を選出する。

8.交流戦は怪我人等、試合に出場できない事情がある選手を除き、なるべく選手全員が試合に出場できるよう考慮する。

9.ラグビーのコーチングに限らず、問題行動を確認した場合、対象選手を指導する。

■保護者コーチコード （サポートコーチ含む）

＜JRFU＞
1.コーチング現場に親子関係を持ち込まない。

2.自分の子どもに対して贔屓することはあってはならないが、だからといって厳しすぎるのも良くない。親子間での厳しい叱責については他のコーチが意見を言えないだけでなく、他のプレーヤーも怯えてしまう可能性があり、チームの雰囲気が悪くなる可能性があるからである。

＜福井 JRS＞
1.安全を最優先する。

2.原則、全ての練習に参加する。

3.プレーヤーセンタードコーチングの考えを理解し広める。

4.子どもが活動に参加しない日も練習に参加する。

5.ヘッドコーチ、アシスタントコーチの指示に従い練習をサポートする。

6.ラグビーのコーチングに限らず、問題行動を確認した場合、対象選手を指導する。

■レフリーコード

＜JRFU＞
1.プレーヤーのスキルレベルに合うように競技規則を変更する。
2.できるだけ笛が少なくなるように試合を進める。
3.スポーツマンシップを保証する。
4.それが妥当であれば、チームのパフォーマンスをほめる言葉をかける。
5.首尾一貫し、客観的で、思いやりを持って対応する。
6.レフリングの原則と年少のプレーヤーの発育発達について精通している。

＜福井 JRS＞
1.C 級レフリー以上の資格を保有している方。
2.レフリー目線でコーチや選手へのアドバイスを行う。
3.プレーヤーセンタードコーチングの考えを理解し広める。